

瀬戸内市地域おこし協力隊を募集します

応募の前に必ずおさえておきたい 瀬戸内市ってどんなところ？

穏やかで晴れの日が多く、災害が少ない「晴れの国」と言われる岡山県の南東部に位置する瀬戸内市は、平成16年11月に3つの町が合併して誕生しました。中心市街地があり、山・平野・海に面する多様な「邑久町」、昔ながらの港町であり、温暖な気候から農業が盛んな「牛窓町」、備前福岡を有し、吉井川の恵み豊かな「長船町」の個性豊かな3町からなる市です。また、県庁所在地の岡山市へはJRで約30分、車で約40分。高速道路を利用すれば、大阪、広島、米子へ2時間強、東京へは岡山駅から新幹線を利用すれば約3時間強と交通の便がとてもいい場所に位置しています。



市中心部

地域おこし協力隊の活動も移住後の暮らしも安全安心で楽しく両立できるまちです。



人口/37,541人 (H30.5.1現在)

年間平均気温/15.0°C (最高 35.0°C 最低 -4.7°C ※H29 気象庁データより)

年間降水量/1246.0 mm (東京 1430.0 mm、大阪 1275.5 mm ※H29 気象庁データより)

瀬戸内市のあふれる魅力

備前おさふね刀剣の里（備前おさふね刀剣博物館）

全国的にも珍しい刀剣専門の博物館や鍛刀場、工房などがあり、展示だけではなく刀匠などの作業を間近に見ることができます。

毎月第2日曜日には玉鋼を打ち延ばす古式鍛錬が行われ、鎚の音と飛び散る火花は必見です。



備前福岡

中世山陽道随一の商都と言われ、国宝「一遍上人絵伝」に描かれた「福岡の市」の場面は有名です。

往時の「福岡の市」を再現する定期市として、地域の農産物や加工品、ご当地グルメなどの店舗が集まる「福岡の市」が毎月第4日曜日、「備前福岡の大市」が年2回開催され、毎回多くの人でにぎわいます。



牛窓オリーブ園

丘の斜面に約2000本のオリーブが広がり、花が咲くころは緑の園が淡黄色に染まり幻想的で、丘からの景色も素晴らしいです。

毎月第2日曜日は、雑貨、工芸、地元野菜、オリーブ製品、ワークショップなど小さなお店が集まるオリーブガーデンマーケットが開催され、毎回多くの人でにぎわいます。



牛窓しおまち唐琴通り

古くから港町として栄えた面影を残し、どこか懐かしさを感じさせてくれる「しおまち唐琴通り」。毎年9月には、民家や商家の軒先など約40カ所に段飾り、内裏びな、掛けびななどを展示する「牛窓八朔ひな飾り」、10月には地元アーティストらの作品が並ぶ「牛窓しおまちアート」など町並みを生かしたイベントが盛んに行われています。



瀬戸内市の暮らしのインフラ

子育てと教育

子育て世代の移住者が多いのも瀬戸内市の特徴です。「自然の中で子育て」「安全安心な食材を与えたい」という環境の良さはもちろん、中学生までの子ども医療費の無償化、急用時の一時保育や病気の時の病児保育、放課後児童クラブなど子育て支援も充実していて、家族連れでの応募でも安心です。



瀬戸内市民図書館「もみわ広場」

市民図書館は「もみわカフェ」「読書テラス」があり、子どもを連れて行きやすく、市民の集う場所になっています。「喜之助ギャラリー」「せとうち発見の道」など瀬戸内市独自の文化に触れるコーナーもあり、瀬戸内市の教育・歴史・文化の拠点となっているので、活動のヒントを得たり、暮らしの豊かさを感じる場所になるはずです。



瀬戸内市民病院

新築移転したばかりの市民病院は、従来の救急医療、外来診療、入院機能に加えて在宅復帰を支援するリハビリ機能が充実。MRI・CT・内視鏡などによる人間ドックや健康診断で皆さんの健康を支える、まちの心強い医療機関です。そのほか4つの病院と23の診療所、13の歯科医院があります。また、岡山市と隣接しているため、岡山市内へも通院が可能です。



瀬戸内市地域おこし協力隊 隊員 OB の紹介

三木裕紀さん（協力隊 OB／市集落支援員）

デザイナーでもある三木裕紀さんは、戦国武将や一遍上人等の縁の地として知られる長船町福岡地区にある備前福岡郷土館を改修し、「地域×デジタルファブ리케이션」の拠点「Fablab setouchiβ」を立ち上げました。ここには、3Dプリンターやレーザー加工機といった機材が備えられ、それらを活用して歴史・文化資産に新たな価値をもたらす数々のプロジェクトを展開してきました。また、機材以上に注目したいのが、ここに集積される人材とスキル、ノウハウ。寒風陶芸会館、備前おさふね刀剣博物館、瀬戸内市立美術館とい

った公共施設から、市内に伝わる糸繰り人形劇を継承する団体などの市民活動グループ、地域内外との連携、交流によって、単に設備を整えただけのものづくり工房とは一線を画しています。三木さんは現在、モノづくりを通じた地域課題の解決、体験学習、起業支援を行なっています。この、ビジネス開発と地域支援を両立させようとする姿勢こそが「Fablab setouchiβ」の個性となっており、起業したい、豊かな暮らしがしたい、子供の教育に生かしたい、といった様々な面で、地域の可能性を広げる拠点となっていくに違いありません。



Fablab setouchiβ（三木裕紀さん写真左）

菊地友和さん（協力隊 OB／市移住推進員）

瀬戸内市東部の瀬戸内海に面した裳掛地区。市の中心地を抱える邑久町に属してはいるものの、人口減少、高齢化が深刻です。産業についても、ピオーネ・みかんなどの果樹栽培や、牡蠣養殖を中心とした漁業が栄えてきた歴史がありながら、後継者の不足やブランド力の低下という問題を抱えています。

そんな中、菊地友和さんは、裳掛地区コミュニティ協議会役員や地元の有志とともに「もかけむらおこしプロジェクト」を立ち上げ、この地区の維持を目指してきました。プロジェクトでは、空き家探し、農地探し、空き家の清掃といった、移住者



地域住民と移住者が自らで移住フェアに出展。移住希望者に地域をPR

を受け入れるための活動を中心に、地域の賑わいを創り出すための様々な活動を行ってきました。その結果、活動開始から10組以上の移住者が定着し、住民のモチベーションの向上と地域コミュニティの活性化につながっています。また、移住者の側も、オープンファームやオープンガーデンの開設、マルシェやカフェの開催といった活動を通じて地域の活性化に貢献しようという気持ちを持つ人が多く、今では地域行事にも欠かせないメンバーとなっています。移住者が定住し、新しい地域住民となっていく中で、また新しい地域が形作られていくことでしょう。

浅井克俊さん（協力隊 OB／現ココホレジャパン株式会社 代表取締役）

浅井克俊さんが漁師や料理人、事業者、生産者、販売店、地域、都市とつながり、岡山を代表する魚「ままかり」を使った商品の開発・販売・ブランディングに取り組んだ「ままか Re.Project」。現在は、地元漁協が所有する加工場を借りて代表商品である「ままチョビ」（瀬戸内市発ブランド「Setouchi Kirei」認定商品）をはじめ、いくつかの商品を製造しています。

地域おこし協力隊の任期途中に、地域の魅力を広告する会社「ココホレジャパン株式会社」を設立した浅井さんは、それらの商品の企画・販売を積極的に行ってきました。その積極性と高いデザイン性で、百貨店、イオン、空港、雑貨店、美術館など、協力隊卒業時には、既に販路を確立させていたのです。原材料である「ままかり」や、製造に携わる人材の不足により、ままチョビが品薄状態となるなどの困難もありましたが、新たな仕入れルートの開拓、瀬戸内の資源を活かした新商品のリリースなどを行い、事業拡大に挑み続けてきました。地域での雇用を生み出し、また、その社員からの提案によって新商品が生まれるなど、着実にローカルビジネスとしての理想的な形に近づいています。



品薄状態が続く「ままチョビ」

瀬戸内市地域おこし協力隊 現役隊員の紹介

谷 美香さん（大阪府堺市から移住）

ゲストハウスでの起業を目指して平成29年1月に着任した谷美香さん。協力隊OBの浅井氏が立ち上げた「ままか Re.Project」に携わりながら、港町の風情が残る牛窓で、空き家になったオーシャンフロントの古民家をゲストハウス開業に向けて借り受け、DIYワークショップなどを行い、整備の過程もゲストハウスの事業として組み込みながら完成を目指しています。商店街としてのかつての賑わいを取り戻したい地元住民と、移住、短長期の滞在を希望する地域外の両方のニーズに応えようと活動しています。



DIY ワークショップ（谷隊員写真下段左から2番目）

コッル ラッファエレさん（岡山市から移住）

イタリアミラノ出身のアーティストで、平成29年10月に着任したコッル ラッファエレさん。着任当初は、協力隊OBの三木氏が立ち上げた「Fablab」の取組みに参加。備前福岡地区を中心に地域住民との繋がりを得て、現在は、同地区活性化の拠点として再生された「仲崎邸」で、ハーブの栽培、ハーブカフェなど地域内外の交流を活性化させるためのイベント等の企画運営を行っています。また、アーティストとして、「備前福岡の市」の会場屋根への壁画プロジェクトや、世界各国のメンバーで構成された「Setouchi International Project（略：SIP）」の中心メンバーとして、瀬戸内市の魅力を世界に発信するための取組みを進めています。



備前福岡の市壁画プロジェクトに取組むコッル隊員

小原 悠雲さん（岡山市から移住）

牛窓地区にある前島の活性化を目指して平成30年4月に着任した小原悠雲さん。着任前から、島の地域資源を生かした体験イベントの企画実施、情報発信など交流人口増加に向けた活動をしていました。着任以降も、前島を拠点に、耕作放棄地を活用したレモン栽培とそのブランド化、特産品開発施設や移住者の受入体制整備など、より発展的な活動を行っています。着任して早速、港町の風情が残る「牛窓しおまち唐琴通り」沿いに「牛窓カフェ」をオープン。牛窓や前島への観光のスタート地点となる場を目指して、地域の魅力の発信やイベントに取組んでいます。



牛窓カフェを運営する小原隊員

自分の夢を通じた地域づくり



瀬戸内市では、地域おこし協力隊1名を募集します。

起業によって雇用を生み出したり、何かを創り出す過程で地域の資源や魅力を再発見したり、新しいアイデアで地域内外の新しい交流を作り出したり。地域に根ざしたさまざまな活動には、地域や、地域で暮らす人々を元気にする力があります。あなたがやってみたいこと、つくってみたいことにも、そうした力がきっとあるはず。瀬戸内市は、その力を地域づくりに活かしていきたいと考えています。

先輩隊員や地域住民といっしょに、そんな地域づくりにチャレンジしたい人を募集します。

県内でも人気の移住地として注目を浴びる瀬戸内市は、多くの移住者を受け入れてきました。その背景には、恵まれた環境だけでなく、地域や先輩移住者の手厚いサポートがあります。これまでの地域おこし協力隊も、地域との繋がり、先輩との繋がりを通じて、モノづくりを通じた地域支援、移住促進を通じた地域コミュニティの活性化、特産品開発、空き家活用など、それぞれの切り口で地域の魅力や可能性を引き出してきました。その結果、地域の将来に繋がる活動を実現し、任期を終えた後もプロジェクトを成長させ続けています。

瀬戸内市地域おこし協力隊に着任する最大のインセンティブは、先輩隊員とそのプロジェクトの多様性に関われることかもしれません。協力隊の任期は最長で3年ですが、その間、地域はもちろん、先輩隊員やそのプロジェクトと関わりながら活動することが、スキルの習得やシェアも含め、あなたの卒業後、その先の人生をきっと豊かなものにするはずです。

なんとかして叶えたい想いや夢、希望を持って瀬戸内市を目指してくれる方を募集します。

瀬戸内市地域おこし協力隊募集要項

1. 募集人員

地域おこし協力隊 1 名

2. 活動内容

自分の夢を通じた地域づくりをテーマに活動をご提案ください。

3. 募集対象（募集条件）

- (1) 年 齢
平成 30 年 4 月 1 日現在で 20 歳以上の方
- (2) 性 別
問いません
- (3) 住 所
3 大都市圏をはじめとする都市地域に居住し、委嘱後、瀬戸内市内に生活拠点を移し、住民票を異動できる方
※「3 大都市圏をはじめとする都市地域」とは、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県及び奈良県並びに札幌市、仙台市、新潟市、静岡市、浜松市、岡山市、北九州市、福岡市及び熊本市のうち過疎地域自立促進特別措置法、山村振興法、離島振興法、半島振興法及び小笠原諸島振興開発特別措置法に指定された地域外の地域をいいます。詳しくはお問い合わせください。
- (4) 資格等
・普通自動車運転免許を取得し、日常的に自動車を運転している方
・基本的なパソコン操作（ワード、エクセル等）のできる方
- (5) 健 康
心身ともに健康で誠実に職務を行うことができる方
- (6) その他
地域おこしに意欲と情熱があり、市民等と積極的に協働できる方

4. 勤務地

瀬戸内市役所企画振興課

5. 勤務日・勤務時間

- (1) 勤務日数
原則として月曜日から金曜日のうち週4日
土曜日・日曜日・祝日に活動した場合は代休対応
- (2) 勤務時間
1日7.5時間、週30時間
- (3) 休 暇
採用後半年経過後、年次有給休暇あり

6. 雇用形態及び雇用期間

- (1) 雇用形態
非常勤の特別職
- (2) 雇用期間
任用の日（平成31年2月1日以降）から平成31年3月31日まで
ただし、終了時に双方協議の上、1年ごとに更新し、最長3年まで期間を延長します

7. 処遇・福利厚生

- (1) 報 酬
月額166,000円
- (2) 住 居
市が借上げ提供
- (3) 福利厚生
健康保険、厚生年金、雇用保険加入
- (4) そ の 他
活動に必要な経費を予算の範囲内で支給します。引越しに係る経費、住居に係る光熱水費等、活動期間中の生活に必要な備品などは隊員の負担となります。

8. 応募手続

- (1) 受付期間
平成30年11月26日（月）～平成30年12月25日（火）
- (2) 提出書類
ア 瀬戸内市地域おこし協力隊応募用紙（様式1）
イ 瀬戸内市地域おこし協力隊活動目標レポート（様式2）
ウ 現住所の住民票
※様式は市ホームページからダウンロードできます。提出書類は返却いたしません。
- (3) 申込み先・問い合わせ先

瀬戸内市役所 総合政策部 企画振興課

〒701-4292 岡山県瀬戸内市邑久町尾張300番地1

TEL.0869-22-1031 FAX.0869-22-3304 Email.kikaku@city.setouchi.lg.jp

9. 選考の流れ

(1) 審査方法

・第1次選考

書類審査の上、結果を応募者全員に文書で通知します。

・第2次選考

第1次審査合格者について面接審査を行います。日時等は第1次審査結果を通知する際にお知らせします。なお、第2次選考審査に要する交通費等は個人負担とします。

(2) 最終選考結果のお知らせ

最終選考結果は文書で通知します。

10. 現地の下見について

応募に際して、瀬戸内市現地や実際の地域の取組みの下見を希望する場合は、市担当職員及び移住推進員が現地等を案内しますので、ご希望される場合はメールまたは電話にてご連絡ください。

連絡先

瀬戸内市役所 総合政策部 企画振興課

〒701-4292 岡山県瀬戸内市邑久町尾張300番地1

TEL.0869-22-1031 FAX.0869-22-3304 Email.kikaku@city.setouchi.lg.jp

11. その他

募集に関する質問等は、10.の連絡先までご連絡ください。